

平成31年度 調布市立第七中学校 学校経営計画

学校教育目標
 ～徳・知・体の調和のとれた生徒の育成～ア 自分を大切にし、思いやりの心をもつ生徒（自尊）イ 夢や目標をもち、絶えず学び続ける生徒（立志）ウ 心と体を鍛え、爽やかな感動を生む生徒（感動）

目指す学校像(ビジョン)
 調布市立第七中学校の子供の在籍数は命の数である。子供一人一人の命に「生きる力」を育む教育活動を実践するため、次の校訓と教育目標を定める。
 「**自尊・立志・感動**」～徳・知・体の調和のとれた生徒の育成～

【教師像】●愛情と理性をもって、生徒に本気でかかわる教師 ●健康で自己の強みを理解し、生かすことのできる教師 ●「和して同ぜず」組織力の向上に努め、行動する教師
 【学校像】生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校

本校の現状と課題
学習意欲と授業力の向上 人権意識の醸成と組織力の向上 心と体の健康づくり 地域協働の学校づくり オリンピック・パラリンピック教育の推進とボランティアマインドの醸成

| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する |
|------------|-----------------------------------|---|---|---|
| 学力向上 | 学習意欲と授業力の向上 | 「主体的・対話的で深い学び」による「知識・理解」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の育成 | ○学習に「見通し」があり、各教科の特性を生かした「振り返り」のある授業づくり ○「できる喜び」「伸びる喜び」「集う喜び」のある授業づくり ○生徒理解に基づく授業づくり ○「主体的・対話的で深い学び」による授業改善（グループでの話し合いは4人以下） ○少人数・習熟度別指導（数学・英語）の充実 ○読書活動（毎朝）の継続 ○SS・学習支援員等による個別支援 | ○道徳科の研究授業（年間2回）研究協議会の実施 ○長時間授業観察（年間3回）+短時間観察（毎週） ○各種検定試験の目標値（英検：延べ120名、漢検：80名、数検：50名） ○全校計算力テスト・単語力テスト ○朝読書（全学年で月3時間以上の時間確保） |
| | | ライフステージに応じた研修参加と情報の共有化 | ○都教職員研修センター等での研修内容・成果の共有財産化（各自A4判1枚にまとめ冊子作成） ○主幹・主任教諭による若手教諭等へのOJTの実施 ○週案簿による進行管理と情報共有（生徒の実態・課題や学級・学年の課題把握等）並びに管理職からのコメント記載 | ○校長による若手教諭等への指導（通年） ○夏季休業中の研究成果を冊子化（9月） ○週案簿による課題把握とコミュニケーション（通年） |
| 健全育成 | 人権意識の醸成と組織力の向上 | 人権意識の醸成と予防的生活指導の充実 | ○教育活動全般での人権意識の高揚（校長講和、標語掲示等） ○人権教育プログラムの活用（校内研修） ○「学校いじめ対策委員会」によるいじめの未然防止・早期発見・解決のための組織対応 ○トラブルを学びに変える指導の徹底 ○「挨拶・聴く・時間・清掃」の重点指導 ○聴き合える人間関係の構築 ○丁寧且つ複数での生徒・保護者面談の実施 | ○毎月の「いじめに関するアンケート」の実施 ○担任・SCとの定期的な面談の実施 ○管理職を含む丁寧な保護者面談（通年） ○「学校いじめ対策委員会」「校内委員会」（週1回） |
| | | 関係諸機関との緊密な連携と組織力の向上 | ○子ども家庭支援センター・教育相談所・児童相談所・保護司・民生児童委員・警察等、健全育成に携わる関係機関・団体との連携強化 ○SC・SS参加による校内支援委員会や生活指導部会「学校いじめ対策委員会」での情報共有、課題把握・解決のための具体策検討 ○職層等に応じた外部機関等との連携強化 ○報告・連絡・相談・記録の徹底と日常化 ○市内第4地区民生児童委員との交流 | ○各地区協等との地域連携（通年） ○第4地区民生児童委員と本校職員との顔合わせ及び情報共有 ○すこやか・児相との迅速な情報共有と連携強化 ○ここあ（調布市社会福祉協議会）キートスとの連携 |
| 健康・体力づくり | 心と体の健康づくり | 「はしうち教室」の充実 | ○「心の居場所」づくり：これまで築き上げてきた安心・安全な環境の維持・継承 ○表現科の充実による教科横断的な学習の実施及び適切な教育課程の在り方の検討 将来的な社会的自立を目指した教育活動の実践：挨拶、相手の立場を考えて話すこと、聴くこと等コミュニケーション能力の向上 | ○SC個別面談（毎週）・担任個別面談（適宜）+満足度調査（学期毎） ○表現科カリキュラム検討、教育課程の見直し ○CST（年間35回）+演劇コミュニケーションワークショップ |
| | | ジョブ・イノベーショントレーニングと食育指導の継続 | ○体育の授業を中心としたジョブ・イノベーショントレーニングの継続・深化及び市内小中学校への普及・啓発 ○昼休みや放課後等の運動・スポーツに親しむ場と機会の設定 ○小学校栄養士等との連携による食育指導の充実及び保健給食委員会の取組 | ○保健体育科におけるジョブ・イノベーショントレーニング（通年） ○ジョブ・イノベーショントレーニングを軸とした研究授業の実施・普及 ○食育指導（1年対象）の実施・食に関する意識調査 |
| 保護者・地域との連携 | 地域協働の学校づくり | 地域学校協働本部による教育活動の活性化と積極的な情報発信 | ○コーディネーター3名・学習支援員4名・スクールサポーター1名、スクールサポートスタッフ1名 ○あいさつ運動等ボランティア活動の協力・支援 ○学習支援：地域人材の発掘、学習補助や個別指導、放課後学習等「理科実験教室」「はしうち教室」調理実習補助、各種検定試験補助、学校だより250部の地域への配布・回覧 ○部活動指導：大学との連携による学生発掘、教職志望者等による技術指導を中心とした取組 | ○学習指導補助等に関する各教科担任へのアンケート調査・支援計画立案（通年） ○HPの更新（毎週） ○地域協働本部スタッフ会議（毎月） |
| | | 外部人材の積極的な活用と新たなネットワークの構築 | ○近隣大学や教職大学院等との新たな連携関係の構築（大学にとっての人材育成と地域貢献、本校にとっては教育活動の活性化を目的とした連携） ○地域ボランティアの人材発掘（通年） ○演劇を取り入れたコミュニケーション講座「せんがわ劇場」の継続 ○小中連携の拡充（教員研修、地域教育懇談会、授業交流等による相互理解及び共通実践） | ○講師を招いた「調布市防災教育の日」 ○コミュニケーション講座（1年対象・2時間×3回） ○学芸大学、法政大学、中央大学に続く教育ボランティアの発掘（通年） |
| 特色ある教育活動 | オリンピック・パラリンピック教育の推進とボランティアマインドの醸成 | 世界ともだちプロジェクトの推進 | ○世界ともだちプロジェクト（対象国：アメリカ合衆国、フィリピン共和国、赤道ギニア共和国、インドネシア共和国）の一環として、各国大使館との連携による年間35時間の有効活用 ○アスリートを招いたオリパラ講演会の実施 | ○大使館との連携強化 ○一流アスリートを招いたオリパラ講演会（6月7日） ○対象国との交流活動（通年） |
| | | 生徒会・七中VNWの取組によるボランティアマインドの醸成 | ○生徒会・七中VNW（ボランティアネットワーク）を中心とした環境改善活動（潤いのある環境づくり）及び地域貢献活動（社明運動や地域清掃等）の推進、オリパラを契機とした3R人材育成プログラム | ○延べボランティア活動参加人数目標（在籍生徒数×3） ○調布警察との連携によるあいさつ運動 ○新規ボランティア依頼要請への協力 |